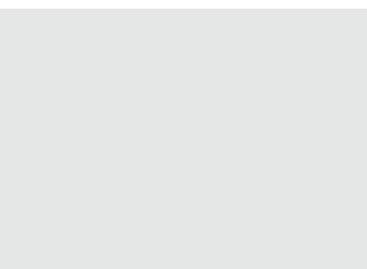




米日カウンスル

2019年 活動報告書



リーダーを育成し続けた10年間



目次

ご挨拶.....	4
米日カウンシルについて.....	5
シグネチャー・プログラム	
2019年アニュアル・カンファレンス.....	8
リーダーシップ・イニシアチブ.....	10
在米日系人リーダー訪日プログラム.....	11
新生リーダープログラム.....	12
アジア系アメリカ人リーダー訪日プログラム.....	13
女性のリーダーシップ育成.....	14
教育・ネットワーキングのプログラム	
渡邊利三寄付奨学金.....	16
令和時代を迎えて.....	17
シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム.....	17
日本-カリフォルニア知事会議.....	18
地域プログラム.....	19
ビジネス・ネットワーキング.....	20
政界・議会のネットワーキング.....	20
TOMODACHIイニシアチブ	
TOMODACHIイニシアチブについて.....	22
TOMODACHIプログラム.....	23
役員・スポンサー等	
役員.....	28
スポンサー.....	31
メンバーシップ.....	35



親愛なる友人の皆様

米日カウンシルの創設以来、10年が経ちました。日系アメリカ人のリーダーらが2008年に集い、米日カウンシル創設を構想した街、ロサンゼルス—私たちはそこで2019年のアニュアル・カンファレンスを開催し、記念すべき節目を祝しました。米日カウンシルのメンバーの多くがそこで語った、過去10年間における逸話や思い出は、この活動報告書にも掲載されています。この節目は、これまでの業績を祝うとともに、今後10年間の取り組みを更にインパクトのあるものにするという私たちのコミットメントを示す機会でもありました。

2019年は令和時代の幕開けとなりました。米日カウンシルも大きく変化しています。新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの生活やコミュニティ、交流プログラム全般に大きな影響を与えています。プログラムやイベントをこれまでと同じように運営することは難しくなりましたが、私たちは、日米間の友情を深めるという使命はこれまで以上に重要だと確信しています。テクノロジーやバーチャルな方法を使って、引き続きリーダーを育ててつなげ、新しい世代のチェンジメーカーを育成しています。

2020年には、新しいCEOが雇われ、米日カウンシルの成長における次の時代を率いていく予定です。メンバー、スポンサーや他のパートナーの皆様にとって、米日カウンシルが支援に値する組織であり続けるよう、私たちは全力を尽くします。私たちの強力なネットワークを構築する人々は、日米関係の最前線で活躍し続け、どのような国際的な課題に対しても、リーダーシップを発揮するでしょう。

リーダーシップに焦点を当てた様々なプログラムの成功を踏まえ、私たちは今後も、新しい人間関係を構築し、多様な意見を取り入れ、イノベーションを促進し、世界的な課題の解決に向けて日米関係を活用できるよう、社会貢献の場を提供します。そのためには、私たちの最大の強みである、背景、セクターや世代を超えた日米のリーダーのネットワークは欠かせません。

東日本大震災で被災した学生を支援するために2011年に設立されたTOMODACHIイニシアチブは、その後大きく成長しました。私たちは引き続き東北の復興に力を入れています。今では米国や日本全国における若者も支援しています。在日米国大使館との官民パートナーシップであり、日本政府や多くのスポンサーの支援も受けるTOMODACHIは、今では将来のリーダーを育成するパイプラインとなっています。まもなく10周年を迎えるTOMODACHIを、私たちはその後の10年も運営していく予定です。

サポーター、役員、カウンシル・リーダー、アソシエイト、フレンズ・オブ・ザ・カウンシルの皆様のご支援とスタッフの懸命な仕事ぶりに対し、米日カウンシルを代表して心より感謝申し上げます。本報告書にありますとおり、私たちは、日米関係の強化、そして人と人とのつながりの構築という使命において、新たな時代を迎えたことを誇りに思います。

アイリーン・ヒラノ・イノウエ
会長

フィリス・キャンベル
理事長

米日カウンシルについて



使命

米日カウンシルは、日米関係を強化すべく、多様なリーダーを育成し、つなげる組織です。複数の日系アメリカ人が創設した米日カウンシルは、アジア太平洋や他の地域においてよりよい未来を構築するため、あらゆる背景、セクター、世代の日米のリーダーが集う場を設け、パートナーシップを促進します。

目的

- 米日カウンシルは、日系アメリカ人をはじめとする日米のリーダーが集い、二国間の絆を強化するユニークなコミュニティです。
- 米日カウンシルは、多様なリーダーが分野を超えて協力し合い、深く持続的な関係を築けるネットワークを提供します。
- 米日カウンシルは、人生を変えるような経験を提供することによって、日米の関係強化に貢献する意欲を持った次世代リーダーを育成します。
- 米日カウンシルは、社会への貢献を重視し、私たちの多文化的な観点や経験が社会に良い変化をもたらすよう、行動を起こします。

教育的非営利団体である米日カウンシルは2008年に設立され、ワシントンDCを本部に、カリフォルニア、ハワイと東京にスタッフを置いています。2012年には、TOMODACHIイニシアチブを支援するため、米日カウンシルージャパンが設立されました。2013年には公益財団法人に認定された米日カウンシルージャパンは、東京を本部としています。

「日米関係において重要な役割を担う人々をつなげ、素晴らしい両国の関係を強化し前進させる方法についてディスカッションの場を設ける米日カウンシルは、称賛に値します。」

—デービッド・R・スティルウェル
米国務省 国務次官補(東アジア・太平洋担当)

「人と人とのつながりが国同士の関係を深めます。私はそれを何度も見てきました。米日カウンシルもこのことをよく理解し、成功を収めています。日米の人々の特別な絆を様々な方法で深める米日カウンシルに御礼申し上げます。」

—杉山 晋輔 駐米日本国特命全権大使

リーダーを育成し続けた10年間

2008年12月に創設された米日カウンシルは、2009年に事務所を開設しました。以来、米日カウンシルは、メンバーの数、活動の範囲や規模において大きく成長し、多くの日米のリーダーをつなげてきました。過去10年間における主な活動は以下のとおりです。

主な活動 (2008-19年)



▶ **2008年**
日米関係の強化を目指す日系アメリカ人リーダーらが米日カウンシルを創設。



▶ **2011年**
東日本大震災後の復興を支援するため、TOMODACHIイニシアチブが設立される。



▶ **2014年**
笹川平和財団の後援の下、アジア系アメリカ人リーダー訪日プログラムが設立される。



▶ **2010年**
米日カウンシルの第一回アニュアル・カンファレンスが開催され、新生リーダープログラムの一期生が参加。



▶ **2013年**
外務省が主催する在米日系人リーダー訪日プログラム(2000年設立)の参加者が安倍首相を表敬訪問。



▶ **2015年**
安倍首相によるシリコンバレー訪問を受け、米日カウンシルとアジア・パシフィック・イニシアティブがシリコンバレー・ジャパン・プラットフォームを設立。



▶ 現在

新生リーダープログラム、TOMODACHIイニシアチブ、在米日系人リーダー訪日プログラム、アジア系アメリカ人リーダー訪日プログラムなどを通じ、リーダーを育成し続けています。



過去を振り返り、将来を見据える

「他の複数の日系アメリカ人リーダーとともに、私も米日カウンシルの創設者の一人でした。人と人をつなげることに特化した新しい組織の今後について考える過程は、とても楽しいものでした。私たちが思い描けることは、将来何でも実現できると思います。私たちが適格な人たちをつなげば、今後どのような挑戦があったとしても、彼らは協力する方法を見つけていけると確信しています。」

—アイリーン・ヒラノ・イノウエ
米日カウンシル会長

「この10年間にわたって、米日カウンシルが、日本と在米日系人の関係を強化するため、活発な活動を行ってこられたことは、極めて有意義であると考えています。中でも、次世代の日系人リーダーの育成とネットワークの強化に尽力されておられることは、今後、50年、100年の長きにわたる日米の友好関係の礎となるものです。」

—安倍 晋三
内閣総理大臣

シグネチャー・プログラム:

2019年アニュアル・カンファレンス
リーダーシップ・イニシアチブ
在米日系人リーダー訪日プログラム
新生リーダープログラム
アジア系アメリカ人リーダー訪日プログラム
女性のリーダーシップ育成



2019年 アニュアル・カンファレンス



(左)「ビッグ・ナインとAIの未来における日本の役割」と題した講演を行うエイミー・ウェブ氏(ニューヨーク大学スターン・ビジネススクール 教授、フューチャー・トゥデイ・インスティテュート 創設者兼CEO)
(上)イノベーションの重要性について語る内山田 竹志氏(トヨタ自動車 代表取締役会長)

米日カウンシルと米日カウンシルージャパンは、11月4日から5日にかけて、第10回アニュアル・カンファレンスをロサンゼルスで開催しました。2019年のテーマは『画期的なアイデアと大胆なリーダーシップ ～日米関係の次なるステージ～』で、官民におけるリーダーシップとイノベーションが話し合われました。また、米日カウンシルが設立10周年を迎えたことを記念し、アイリーン・ヒラノ・イノウエ会長は、両国の絆をますます強固なものにするため、さらなる活動を追求する米日カウンシルの今後の10年間に対しても、高い期待を表明しました。

ビジネス・セクターにおける大胆なリーダーシップ

ソニー株式会社の元会長、シニアアドバイザーの平井一夫氏が、ジョン・ルース元駐日米国大使とともに、「先見性のある企業経営者がいかに国と国をつなげるか」と題した本会議交流セッションに登壇し、国際的な成功における革新的なリーダーシップの重要性について語りました。平井氏は、日米で育った自身のグローバルな経験に基づき、いかに先進的な考えを追求し、若い有識者の成長に投資し、多様性を促進することになったかについて語りました。また、ソニーの社長や会長としての経験に触れつつ、人間関係の力と、率直な対話のカルチャーがいかに大胆な考えを育むかについて話しました。

著名な日系アメリカ人

ハリウッドで開催された本カンファレンスには、スポーツやエンターテインメント業界で活躍する日系人も多く登壇しました。「日系アメリカ人スター:新たな地平を切り開く次世代リーダー」と題した本会議交流セッションでは、トロント・ラプターズ(2019年のNBAチャンピオン)のゼネラル・マネージャーであるボビー・ウェブスター氏、プロダンサーのコイネ・イワサキ氏、アイスダンス・チャンピオンのアレックスとマイア・シブタニ兄妹が登壇しました。彼らは、自分たちの日系人としての経験や、文化的背景が人生に与えてきた影響、アイデンティティがキャリアにどのように反映されているかについて語りました。

(左から)ジャン・ヤネヒロ氏(米日カウンシルのレガシー・カウンシルのメンバー)、ボビー・ウェブスター氏、コイネ・イワサキ氏、マイア・シブタニ氏とアレックス・シブタニ氏



新生リーダープログラムのアラムナイによるパネル「コミュニティの発言力を高める方法」で、日系人の家族との絆について語るカウンシル・リーダーのナオミ・フナハシ氏

「私たちには、今、(日米間の)重要な友情関係を活用し、戦略的な協力を促進する機会があると思います。」

—エイミー・ウェブ氏(ニューヨーク大学スターン・ビジネススクール 教授、フューチャー・トゥデイ・インスティテュート 創設者兼CEO)





(左)レセプションではミュージシャン、俳優兼UNHCR親善大使のMIYAVI氏が演奏を行いました

(右)明確なビジョンのあるリーダーシップと率直な対話を促進することの重要性を語る平井一夫氏とジョン・ルース氏

「変化の範囲や速度に圧倒される場合もあります。しかし、多くの場合、私はそこから活力を得ますし、私自身も社内の人々も思考を拡大することができます。私のオフィスの壁には、『意志』と『挑戦』という二つの言葉が掲げてあります。この二つの言葉の組み合わせは、私にとって重要です。限界を超えて挑戦し続けることの大切さを思い出させてくれるからです。」

—内山田 竹志氏(トヨタ自動車 代表取締役会長)

新たなTOMODACHI プログラムの発表と東京五輪のプレビュー

在日米国大使館の文化・スポーツ交流担当官であるマイケル・ターナー氏が、新たなTOMODACHIプログラムである「TOMODACHI-U.S. Embassy Go for Gold Leadership Program」の設立を発表しました。日本のスポーツ産業を強化し、スポーツマネージメント分野について学ぶ日本人学生のリーダーシップ育成を目指す同プログラムは、2020年の東京五輪開催に向けた、在日米国大使館による学校へのアウトリーチ・キャンペーン「Go for Gold (ゴー・フォー・ゴールド)」の取り組みを促進するために設立されたものです。また、在米日本大使館公使の四方敬之氏が2020年の東京五輪について話しました。



「TOMODACHI-U.S. Embassy Go for Gold Leadership Program」の設立を発表する、在日米国大使館のマイケル・ターナー文化・スポーツ交流担当官



(左から)ビル・アレン氏(ロサンゼルス郡経済開発公社 CEO)、河本 雄氏(在米国日本国大使館 公使)、マリア・S・サリナス氏(ロサンゼルス地域商工会議所 会頭兼 CEO)、フランク・バックリー氏(KTLAモーニングニュース アナウンサー)

2019年のカンファレンスについて

- ・ メンバー約350名を含め、約650名が参加しました。
- ・ 今回はロサンゼルスで開催された初の米日カウンシル・アニュアル・カンファレンスであり、カリフォルニアで開催されたのは2度目でした。
- ・ 101のスポンサーから、125万ドル以上の温かいご寄付をいただきました。
- ・ 毎日新聞、NHK、ワシントン・ポスト紙を含むメディアが本カンファレンスを取り上げました。

パネル・ディスカッションや特別プログラム

本カンファレンスでは、様々なセクターを代表するリーダーが地元や全米、そして日本からも集い、各々の専門分野について語りました。日米間のパートナーシップを促進するイノベーションと先進的な考えに焦点を当て、下記を含むトピックが話し合われました。

- ・ 日本 × 南カリフォルニア/ロサンゼルス:豊かな相互繁栄の歴史
- ・ エンターテインメント業界における日系及びアジア系アメリカ人
- ・ 世界各地の日系人のアイデンティティに関する調査
- ・ インド太平洋の地政学と貿易:リスク評価と安全保障

リーダーシップ・イニシアチブ



少人数のグループで話し合う参加者ら



(左) 登壇したデービッド・ボダイア氏
(右) 役員として組織に貢献する秘訣について語る米日カウンシル理事長のフィリス・キャンベル氏と理事のビル・ツツイ氏



グループ・ディスカッションで参加者の意見を書き出すステイシー・ウチダ氏



2019年に米日カウンシルはリーダーシップ・イニシアチブを発足させました。米日カウンシルの様々なリーダーシップ育成プログラムの成功に基づき、リーダーシップ・イニシアチブは、新しい人間関係を構築し、多様な意見を取り入れ、イノベーションを促進し、世界的な課題の解決に向けて日米関係を活用できるよう、社会貢献の場を提供します。

リーダーシップ・ワークショップ

11月、米日カウンシルは、初のリーダーシップ・ワークショップを実施しました。ロサンゼルスでのアニュアル・カンファレンスに併せて行われたこれらのワークショップは、実践や体験を通じて、更に効果的なリーダーとなる方法を参加者に伝えることを目指しました。

本会議では、ダイビングのアメリカ人選手として3度オリンピックに参加したデービッド・ボダイア氏が登壇しました。同氏は、いかに逆境を乗り越え、目標に向けて努力し続け、2012年のロンドン五輪と2016年のリオ五輪でメダルを獲得したかについて話しました。

参加者は、二回行われた分科会を通じて、幅広い選択肢から好きなトピックを選ぶことができました。その一部は、役員として貢献したり、他者を率いて必要な変化をもたらしたりと、組織のリーダーとして活躍する方法に関するものでした。また、起業家精神やイノベーションを培ったり、デザイン思考を使って課題に取り組んだり、リーダーシップへの新しいアプローチを取り上げるものもありました。更に、市民活動に従事するコミュニティ・リーダーから話を聞くものや、自分の「ライフ・ポートフォリオ」を作成し、情熱を注ぎたい分野を優先させる方法に関するものもありました。

参加者は、米日カウンシルの理事であるジル・ニシ氏(ビル&メリンダ・ゲイツ財団 戦略計画経営部長 & 米国プログラム 首席補佐官)が率いる最後のワークショップで考えをまとめ、何を学んだか、それをどのように仕事や私生活に適用するかといったことを話し合いました。

地域のリーダー育成プログラム

9月、ニューイングランド在住の米日カウンシルのメンバーは、バークレー音楽大学で、米日カウンシル初となる「地域のリーダー育成プログラム」を開催しました。同プログラムは、日米の課題について教育的コンテンツを提供し、米日カウンシルのメンバーとそれぞれのコミュニティで活躍する人々の間の絆を深めるものです。ボストンで行われた半日のイベントでは、在ボストン日本国総領事の大森撰生氏を含む35人のメンバーや支援者が集まり、日米関係の過去、現在と未来について話し合いました。日系人の強制収容の歴史に関するディスカッション、日本における社会的問題に関するパネルを含め、様々な議論が行われました。

日本人女性の力を決して過小評価すべきでない、と話す厚子・東光・フィッシュ氏(フィッシュファミリー財団 創設者兼理事)。他は(左から)カウンシル・リーダーのクリスティーン・ピルカヴァージュ氏(マサチューセッツ工科大学のジャパン・プログラム)、マイケル・グッドマン氏(マサチューセッツ大学ダートマス校 教授)、カウンシル・リーダーのエリック・ナカジマ氏(ナカジマ経済コンサルティング 主席コンサルタント)。



Ministry of Foreign Affairs of Japan
外務省

在米日系人リーダー訪日プログラム



在米日系人リーダー訪日プログラム (JALD) は、全米各地から選出された日系アメリカ人リーダーが訪日し、日本の実業界、政府、学术界、非営利や文化セクターのリーダーと交流するプログラムです。

2019年の参加者は3月に東京と熊本県を訪れました。東京では、河野外務大臣など官民のリーダーの方々とお会いしました。熊本では、国際交流基金日米センターと熊本市と共催のシンポジウムに登壇し、若者を引き付ける、魅力ある都市づくりについて話しました。

本プログラムは、外務省が主催しています。

「私たちのグループの多様な背景は、私たちを迎えてくださった日本の方々に対し、日系アメリカ人コミュニティの実態を提示するのに役立つのではないかと思います。人と人のつながりを通じて (日米) 関係が強化されるということを繰り返し耳にしましたし、その通りだと思います。しかし、そのつながりは、ワシントンDC、カリフォルニア、東京のみならず、日米各地で構築できるものです。より小さな日系アメリカ人コミュニティと日本をつなげることは、同じくらい、もしくはそれ以上に価値のあることだと思います。」

—ケリー・ヤマサキ氏

2019年の参加者について

2019年の参加者は、アリゾナ州、アイダホ州、ネブラスカ州、バーモント州を含め、様々な地域を出身地とする多様なグループでした。訪日後半年が経った9月、2019年の参加者は、シアトルで同窓会を開催しました。彼らはそこで、地元の日系アメリカ人の歴史について学び、政府、ビジネス、コミュニティを代表する多くのリーダーに会いました。本プログラムの参加者が自ら同窓会を企画し、米日カウンシルのアンニバル・カンファレンスとは別の機会が集うのは、今回が初めてでした。



在米日系人リーダー訪日プログラムのアラムナイ

11月には、ロサンゼルスで開催された2019年アンニバル・カンファレンスに合わせて、日米各地からアラムナイが集い、レセプションに参加しました。本プログラムのオリエンテーションが通常行われるロサンゼルスに戻った彼らは、オリエンテーションで講演したり、3月の訪日を支援したりしてくださった多くの方々と再会しました。

「アリゾナ州にいるたった一人のアラムナイとして、私は、同州の日系アメリカ人コミュニティに対し、大きな責任を感じます…アリゾナ及び全米における日系アメリカ人のコミュニティに貢献し、日米関係の強化に携われる機会をととても嬉しく思います。」

—ブライス・スズキ氏

新生リーダープログラム



米日カウンシルの新生リーダープログラム(ELP)は、新しい世代の若手日系アメリカ人リーダーを育成します。彼らは、リーダーシップ・スキルを学び、米日カウンシルのプログラムを企画・実施し、一生続く力強い友情やネットワークを築いていきます。毎年、24歳から35歳の新たな若手リーダーが選ばれ、米日カウンシルのアンニュアル・カンファレンスに参席します。彼らは米日カウンシル・アソシエートとなり、同プログラムの過去の参加者と共に日米関係の未来を構築していきます。

10年目となる2019年度のプログラムでは、13名の日系アメリカ人の若手プロフェッショナルがロサンゼルスで行われたアンニュアル・カンファレンスに参加し、リーダーシップ・オリエンテーション、シニアリーダーとのネットワーキング、アンニュアル・メンバーズ・ミーティングに参加しました。

U40サミット

5月から6月にかけて、2019年U40サミット(40歳以下のリーダーのための集まり)がホノルルで開催され、全米各地と日本からの人々を含め、65名以上が参加しました。彼らは、禅道場でトレーニングを受け、米日カウンシルの理事やコミュニティ・リーダーとリーダーシップについて話し合い、地元の企業を訪問しました。週末に行われたこのサミットのハイライトはカウカウ・フード・フェストで、200名以上のハワイの住民がサミットの参加者と交流しました。メニューには、ハワイの多様な食材を使った、地元シェフによる作品が多数登場しました。

ジャパニーズ・ヘリテージ・デイ

8月、ELPアラムナイは、カリフォルニア州アナハイムのエンジェル・スタジアムにて、ロサンゼルス・エンジェルスの大谷翔平選手を応援するため、ジャパニーズ・ヘリテージ・デイを開催しました。シカゴ・ホワイトソックスとの試合の日に開催されたこのイベントは、ELPアラムナイの活動を支援するためのファンレイジングイベントでした。参加者は、限定版の大谷翔平ポブルヘッドを受け取り、太鼓のパフォーマンスを楽しみました。米日カウンシルの理事であり、2016年のELP参加者でもある森ジョシュア氏が初球を投げました。このイベントのため各地から集まったELPアラムナイは、別途アンニュアル・カンファレンスでの企画についても話し合いました。



カウカウ・フード・フェストを楽しむ(左から)エイミー・ワタナベ氏(2018年のELP参加者)、リンジー・スギノ氏(2018年参加者)とデレク・ヒラノ氏(2019年参加者)

「私たちは皆、日米関係のために集まりました(アンニュアル・カンファレンスに参加)しました。個人的にお互いのことを知りたいと考える人々が集まる、このような場で構築された人間関係は、一層深いものになると思います。」

—2019年参加者
タカシ・オオノ氏

ジャパニーズ・ヘリテージ・デイの参加者の一人だったコルビー・タケダ氏(2016年のELP参加者)



アジア系アメリカ人リーダー訪日プログラム



様々な背景や出身地を持つアジア系アメリカ人の州議会議員6名が2019年度アジア系アメリカ人リーダー訪日プログラムに参加し、12月7日から14日にかけて訪日しました。2014年に始まった本プログラムでは、米国各地の州議会議員が様々な分野の日本人リーダーと関係を構築し、日米関係を強化させる絆をつくり、国境を越えた意見交換を行います。

2019年度の参加者は、日米のコミュニケーションを促進し、人的ネットワークを広げるため、東京、大阪と京都の各地で政府、企業、非営利団体のリーダーと面談しました。本年のプログラムで特徴的だったのは、日本の人口最少県、鳥取にも訪問したことです。そこでは、地方都市が直面する課題にどのように取り組んでいるかを地元のコミュニティから学ぶため、平井伸治鳥取県知事、非営利団体の代表者や学生と懇談しました。

プログラムの一環として、一行は、「リーダーシップの多様化:アジア系アメリカ人州議会議員が歩んできた道のり2019」と題した東京でのパネル講演会にも登壇し、アジア系アメリカ人の政治家として歩んできた道のりと、米国の政府における多様性の重要性について語りました。また、「長期リーダーシップ促進イニシアチブ:インド太平洋サミット (Advancing Long-term Leadership Initiative: ALLI)」にも参加し、16か国から来た若者と話し合いました。

アジア系アメリカ人リーダー訪日プログラムは、米日カウンシルと笹川平和財団が、全米州議会議員アジア太平洋系アメリカ人幹部会と連携して実施しています。



「このプログラムで特に素晴らしいと思うのは、人と人とのつながりに焦点を当てていることです…本プログラムと米日カウンシルが奨励しようとしていることに私も強く共感しますし、その努力は社会に大きな変化をもたらすと思います。」

—ロシェル・グウェン
ネバダ州下院議員

「このプログラムを通じてお会いしたコミュニティ・リーダーや議員といった方々に、今後私からご連絡する予定です。なぜなら、ケンタッキー州や全米各地において、こういったポジティブな人間関係をもっと構築すべきだと思うからです。各政権でどのような政治的变化があろうとも揺るがない関係をこのプログラムは構築すると思いますし、そのことは、今後大きな成果につながるだろうと思います。」

—ニマ・クルカルニ ケンタッキー州下院議員

女性のリーダーシップ育成



(左)ベスレヘムで開催されたRWLで話すスピーカーら。(右)シリコンバレーで開催された、テクノロジー分野で活躍する女性についての話し合い。

2019年も米日カウンシルは、女性のリーダーシップを支援し続けました。多くのイベントやプログラムが活発な対話とネットワークの強化を促進し、あらゆる世代の男女にインスピレーションを与えました。

地域の女性リーダー育成のためのネットワーキングやその他のイベント

在米日本国大使館の支援のもと、米日カウンシルのメンバーは、2019年も地域の女性リーダー育成のためのネットワーキング(RWL)の機会を企画し、参加しました。12月には、米日カウンシルのアソシエイトであるミキ・サンカリ氏が、リーハイバレーの日本人、日系人、親日家のための組織「JAJAJA」とともに、ペンシルベニア州ベスレヘムでRWLのイベントを企画しました。ニューヨーク総領事館の村上 副領事が日本のウーマノミクスについて話し、コミュニティ・リーダーが日米関係に貢献してきた各々の経験について語りました。RWLとは別に、8月、米日カウンシルのメンバーや支援者がシリコンバレーに集まり、テクノロジー分野で活躍する女性を支援するプログラムの企画について話し合いました。



2019年アニュアル・カンファレンスにおけるパネル・ディスカッション

2019年のアニュアル・カンファレンスでは、米日カウンシルのアソシエイトであるニコール・A・ベラスコ氏(ノレスコ 事業開発リード)、米日カウンシル・ジャパンの理事であるジェニファー・ロジャース氏(アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会社 ゼネラル・カウンセラー アジア)、ジンコ・ゴトウ氏(アニメ・プロデューサー兼コンサルタント、ウィメン・イン・アニメーション 副代表)、カウンシル・リーダーのマリコ・シルバー氏(ヘンリー・ルース財団 会長兼CEO)が、日米両国の複数の分野にわたってキャリアを前進させた自らの経験を共有し、指導者の地位における男女格差に取り組む方法について話しました。



米日カウンシルのニューイングランド地域をとりまとめるジニー・フォード氏(左)、ゲスト・スピーカーのスーザン・ホワイトヘッド氏(中央)と2019年フェローの前田恵理氏

日本女性リーダー育成支援事業

米日カウンシル理事の厚子・フィッシュ氏が設立した日本女性リーダー育成支援事業(JWLI)は、米日カウンシルの支援のもと、2019年も成長し続けました。非営利組織の経営に関心のある日本人女性リーダーを育成するこのプログラムは、ボストンで開催されます。2019年のフェローは、プログラムの終わりに、各々が学んだ内容と今後のアクションプランを発表しました。

TOMODACHIプログラム

2018-19年TOMODACHI MetLife Women's Leadership Program (TMWLP)では、那覇、大阪、札幌と東京の日本の女子大学生が参加し、官民の中堅・若手女性リーダーのメンターから様々な教示を得、ワシントンDCとニューヨーク市を訪れ、外交官や企業幹部をはじめとするリーダーと会いました。株式会社ファミリーマートと株式会社ローソンが支援する「TOMODACHI女子高校生キャリアメンタリングプログラム in 福島」では、高校生が女性有識者の話を聞きました。TOMODACHI-STEM @ Rice University Programに参加した日本人女子大生は、ヒューストンとワシントンDCを訪れました。



TMWLP参加者は、ワシントンDCで米日カウンシルのアソシエイト、カイヤ・キタムラ氏(左から二人目)を含む若手有識者に会いました。

教育・ネットワーキングのプログラム:

渡邊利三寄付奨学金

令和時代を迎えて

シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム

日本ーカリフォルニア知事会議

地域プログラム

ビジネス・ネットワーキング

政界・議会のネットワーキング



渡邊利三寄付奨学金



渡邊リーダーシップウィークエンドでスピーチを行う渡邊氏



渡邊夫妻、アイリーン・ヒラノ・イノウエと渡邊リーダーシップウィークエンドの参加者

「渡邊利三氏に頂いた素晴らしい経験と機会に心から感謝しています。私はベイツ大学で、教授や、多様な背景を持つ友人や、授業でのディスカッションを通じて、毎日新しいことを学び、新しい視点や見方に触れています。今後は、できるだけ多くのことを学び…コミュニティに貢献したいです。」

—2019-20年度 日本からの渡邊奨学生
中村 彩乃氏

「この奨学金を下された渡邊氏に御礼申し上げます。これにより私は、日本で生活しいろいろな知識を得られただけでなく…人としても成長しています…ここで得られた素晴らしい経験は、何事にも代えがたいものです。」

— 2019-20年度 米国からの渡邊奨学生
マディソン・マハフィー氏

渡邊利三寄付奨学金は、1学期間または1年間の、米国または日本への留学を希望する大学生・大学院生に給付されます。渡邊利三財団の渡邊利三会長が米日カウンシルに寄贈した1,000万ドルの寛大な寄付金を財源とし、援助がなければ留学ができない学生に奨学金を給付します。

2019-20年度 渡邊奨学生

2019-20年度には、20名の日本人学生と20名のアメリカ人学生(36名の学部生と4名の大学院生)に奨学金が授与されました。2019年は、米国で学ぶ日本人留学生への支援が四年目、日本で学ぶアメリカ人留学生への支援が二年目を迎えた年でした。これらの奨学生はアメリカの13の州と日本の7つの県にある教育機関に留学しました。

渡邊リーダーシップウィークエンド

本奨学金の特徴の一つである渡邊リーダーシップウィークエンドでは、奨学生が集まり、リーダーシップのトレーニングを受けました。留学経験について話し合い、渡邊利三氏と渡邊夫人、米日カウンシルのメンバーや支援者と会う機会ともなりました。2019年にはリーダーシップウィークエンドが三回開催されました。

2月には、2018-19年度の奨学生がロサンゼルスに集まりました。彼らは、全米日系人博物館を訪問した他、別途開催された、日本と全米の各地域を代表する米日カウンシルのメンバーのためのレセプションに参加しました。11月には、2019-20年度の奨学生のうち23名(20名の日本人学生と、2020年の春学期から留学予定のアメリカ人学生3名)が、TOMODACHI 住友商事奨学金プログラムとTOMODACHI-UNIQLO フェローシップの参加者である学生らとともに、ロサンゼルスで開催された米日カウンシル・アニュアル・カンファレンスに参加しました。彼らは、日系アメリカ人の歴史について学び、米日カウンシルのメンバーや若手有識者と交流し、コミュニケーション・スキルの向上を目指すワークショップに参加しました。12月には、2019-20年度のアメリカ人奨学生が東京で集まりました。彼らは、米日カウンシル・ジャパンの理事やカウンシル・リーダーと会い、日本での生活や国際的に働くことについての話を聞きました。また、渡邊奨学金のアラムナイに会い、奨学金と米日カウンシルが彼らの人生に与えた影響についても話を聞きました。

米日カウンシルは、渡邊氏によるこの永続的な支援のもと、今後より多くの学生を支援していく予定です。

令和時代を迎えて



(左)日系アメリカ人の代表団:(左から)タカノ議員、マツカワ氏、アイリーン・ヒラノ・イノウエ、クボタ氏、ミネタ長官、イゲ知事、飯野氏。



(右)安倍首相と夫人が主催した夕食会にて:(左から)河野香氏、河野防衛大臣(フレンド・オブ・ザ・カウンシル)、ミネタ長官、アイリーン、飯野氏。

10月には、歴史的な「即位礼正殿の儀」が開催され、新天皇陛下が即位されました。日本政府の招待を受け、全米各地の日系アメリカ人7名が、東京で一週間をかけて行われた様々なイベントに参加しました。7名は、米日カウンシルのアイリーン・ヒラノ・イノウエ会長、ワシントンDCのノーマン・ミネタ長官(米日カウンシル評議員会の副会長)、ハワイ州のデービッド・イゲ知事、カリフォルニア州のマーク・タカノ下院議員(米日カウンシル評議員)、ロサンゼルス市のトーマス飯野氏(米日カウンシルの創設理事長、レガシー・カウンシルの理事長)、ホノルルのクリスティーン・クボタ氏(カウンシル・リーダー)、シアトルのローリー・マツカワ氏

(カウンシル・リーダー、在米日系人リーダー訪日プログラムの過去の参加者)です。

即位礼正殿の儀には、外国の要人のみならず、北米と南米各地の日系人30名以上を含め、約2,000人が出席しました。米日カウンシルは、それらの参加者の多くとのかかわりがあることを光栄に思い、今後もあらゆる分野において日米のリーダーの絆を更に強めていきます。

シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム



シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム(SVJP)は、2016年8月以来、毎月勉強会を開催し、テクノロジー分野における様々な専門家の方々を紹介しています。この月例勉強会を通じて、SVJPは、交流の機会をつくり、永続的な人間関係を構築し、様々な組織が太平洋全体に拡大・繁栄できるよう支援するという使命を継続しています。

年間を通じて、SVJPは、影響力のある様々なスピーカーをお招きしました。2019年の初の勉強会では、吉川絵美氏(Ripple社 ジョイントベンチャー・パートナーシップ担当シニアディレクター)が、アジアにおける合弁事業やブロックチェーンを使ったビジネス開発について話しました。スコット・ベルスキー氏(アドビ 最高製品責任者、Behance 共同創業者)は、不安定な状況の中新しいベンチャーを推し進めたり、大胆でクリエイティブなプロジェクトをリードしたりした自らの経験について話しました。カウンシル・リーダーのジェネヴィーヴ・シロマ氏は、カリフォルニア州知事に任命された、公益事業委員会の5名の委員の一人としての経験について話しました。米日カウンシル理事の五味和洋氏(NTT コミュニケーションズ株式会社 取締役、NTT America, Inc. 代表取締役社長)は、2019年の締めくくりとなる勉強会で、インターネットの仕組みと、ネットワークがどのように機能するかについて話しました。



2019年の初の勉強会で登壇した吉川氏

日本ーカリフォルニア知事会議



(左) (左から) オキモ氏、湯崎知事、川勝知事、アイリーン・ヒラノ・イノウエ米日カウンシル会長、クナラカス副知事、伊原木知事、広瀬知事、太田副知事
(右) ゲイリー・ムカイ氏(スタンフォード大学 国際異文化教育プログラム ディレクター)がモデレーターを務めた教育に関するパネル・ディスカッションは、いかに若者の自信を培い、将来世界で活躍する人材を育成できるかについて話しました。(左から) SKY Laboの共同代表であるヤング吉原麻里子氏と木島里江氏、伊原木知事、広瀬知事、湯崎知事。



登壇したクナラカス副知事

「太平洋沿岸の素晴らしい立地に住むカリフォルニアの人々は、商業とビジネスの取引を極東に行いたいと考え、常に西を向いてきました。つまり、日本とカリフォルニアは親密なパートナーになる運命にあったのです。そして実際、親密な関係を築いています。」

— エレニ・クナラカス
カリフォルニア州副知事

8月、米日カウンシルとシリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム(SVJP)は、「日本ーカリフォルニア知事会議」を開催しました。スタンフォード大学で開催された本シンポジウムには、5県の知事を含め、200名以上のリーダーが集結し、シリコンバレーと日本との間で経済協力をいかに強化できるかについて話し合いました。本シンポジウムは、米日カウンシルとSVJPの事業であるガバナーズ・サークルの一環で、2014年7月に開催されたシリコンバレー知事会議の成功を踏まえて開催されました。

講演

カリフォルニア州副知事のエレニ・クナラカス氏は、基調講演で、カリフォルニアと日本の親密な関係について語りました。同氏は、日本への輸出(130億ドル)と日本からの輸入(335億ドル)の双方でカリフォルニアが全米トップの州であること、5,000人以上の日本人留学生がカリフォルニアに在籍していることなどに触れました。

ジオデシック・キャピタルのパートナーであるジョン・ルース元駐日米国大使も登壇し、世界第5位の経済力を持つカリフォルニアと、日本のGDPの9%を占める5県をつなぐことの意義について語りました。

パネル・ディスカッション

大分県の広瀬勝貞知事、岡山県の伊原木隆太知事、静岡県県の川勝平太知事、長野県の太田寛副知事、広島県の湯崎英彦知事は、パネル・ディスカッションにおいて、高齢化や人口減少から災害予防・対応に至るまで、それぞれの県における課題について話しました。モデレーターを務めた、SVJP共同議長のダニエル・オキモ氏は、シリコンバレーの技術がいかにそういった課題に解決策を提供しうるかについて語りました。

知事らはその後、専門家や米日カウンシルのメンバーとともに、教育とヘルスケアをテーマとするパネルにも参加しました。

翌日には、各県の企業団が商品やサービスを披露しました。



ジェネヴィーヴ・シロマ氏(左)を含む参加者は、会議の後のレセプションでネットワーキングを楽しみました。

地域プログラム

米日カウンシルは年間を通じて地域プログラムを開催しています。そこでは、日本人、アメリカ人の双方がネットワークを構築し、日米関係における協力分野について協議します。こういったプログラムを企画・実施し、結果について報告された多くのメンバーに感謝申し上げます。2019年のイベントをいくつかご紹介します。



アトランタ

2月、米日カウンシルは、米国ユダヤ人協会のアジア太平洋研究所 (API) と国際交流基金日米センターと共に、人工知能 (AI) と医療技術の分野における、米国、日本、イスラエルの協力とイノベーションについてのイベントを各地で開催しました。ヒューストン、マイアミ、アトランタ (写真: 米日カウンシル理事のトッド・ガイルド氏 (右) が登壇) の3都市で行われたこれらのイベントでは、各国の業界や学界の専門家が登壇し、パートナーシップがいかにイノベーションにつながり、何百万もの人々に影響を与えることができるかについての見解を話しました。

ヒューストン

9月、米日カウンシルは、ヒューストン・コミュニティ・カレッジにて、「日本テキサスキャリアフェア」を開催しました。米日カウンシル理事のドナ・コール氏が企画したこのキャリアフェアには、10の団体が出展し、日本を拠点とする企業で働くことに関心のある150人近くの求職者が参加しました。参加者は、一対一でキャリアに関するアドバイスをもらい、履歴書を見てもらった他、就職活動のための顔写真も撮影してもらいました。パネル・ディスカッションもあり、ネットワーキングや、テキサスや日本における企業文化への適応の仕方といったトピックが話し合われました。



ニューヨーク

6月、カウンシル・リーダーのマリコ・シルバー氏 (右) を含め、フィランソロピーの分野における日米のリーダーがニューヨーク市に集まり、太平洋両岸におけるフィランソロピーの団体がいかに協力できるかについて話し合いました。米国から学びつつ、日本のコミュニティ団体を強化する方法など、様々なトピックが取り上げられました。これにより、国際交流基金日米センターが支援する二つのラウンドテーブルが終了しました (一つ目は2018年に東京で開催されました)。参加者は別途、米日カウンシル・ジャパンの理事であるゲイリー・モリワキ氏が主催したレセプションや、在ニューヨーク総領事館の山野内勘二総領事・大使が主催したレセプションにも出席しました。



シリコンバレー

5月、カウンシル・リーダーのスザンヌ・バサラ氏、ヤング吉原麻里子氏、リカ・ナカザワ氏が、トヨタ・リサーチ・インスティテュートにて、「40歳を超えて描く『ミッドライフ・ルネサンス』の傑作」と題したイベントを主催しました。ナカザワ氏 (左) がモデレーターを務めたパネルには、サンディー・シライ氏 (デロイトLLP 副会長)、カウンシル・リーダーの大橋晶氏 (PARC ビジネスディベロップメント担当ディレクター)、パティ・リー=ホフマン氏 (フラタリー・アイウェア 共同創設者、トリアージ・コンサルティング・グループ 創設者) が登壇し、それぞれの人生の中で視点がどのように変わっていったかについて話しました。これを皮切りに、その後ニューヨーク、ハワイとロサンゼルスでも、ミッドキャリアに関するトピックに焦点を当てたイベントが開催されました。

ビジネス・ネットワーキング



(左から)萬氏、フェルドマン氏、ケリー氏、関氏とローヤン・ドイ氏(米日カウンシル・ジャパン 代表理事)



TOMODACHIアラムナイのファトウマタ・バー氏と話す久能氏(左)

関西ビジネスフォーラム

10月、関西ビジネスフォーラムが大阪で開催されました。ロバート・A・フェルドマン氏(モルガン・スタンレーMUFJ証券 シニアアドバイザー、フレンド・オブ・ザ・カウンシル)、かれん・ケリー氏(駐大阪・神戸米国総領事)、関総一郎氏(関西経済連合会 専務理事)、萬タシャ氏(Yorozu法律事務所 代表弁護士、米日カウンシル理事)が登壇し、関西の革新的な成長と今後の可能性、そして関西と米国の強い絆について話しました。

ビジネス・アドバイザー・ボード

ビジネス・アドバイザー・ボード(BAB)は、アメリカで勤務経験があり、米日カウンシルの活動にも詳しい日本のビジネスリーダーの集まりです。米日カウンシル評議員会副会長の田中正明氏のリーダーシップの下、BABは2019年も優れた成果を上げました。S&R財団の理事長兼CEOの久能祐子氏(3月)、トヨタ・リサーチ・インスティテュート・アドバンスド・デベロップメント株式会社の最高経営責任者であるジェームス・カフナー氏(6月)、宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙飛行士の若田光一氏(9月)、株式会社メルカリの執行役員(グローバル事業担当)である伊藤錬氏(12月)をそれぞれ迎えて4回の会合を開催し、日米関係についての意見を聞きました。

政界・議会のネットワーキング



相川次席公使が主催したレセプションで集まったCG-JA参加者

在米大使、総領事及び在米日系人リーダー年次会合(CG-JA)

在米大使、総領事及び在米日系人リーダー年次会合は、外務省の支援を受け、米日カウンシルと日本大使館が共催しています。そこでは、全米各地の総領事が選んだ日系アメリカ人リーダーが一堂に会し、日本政府のリーダーと話し合います。1月にワシントンDCで行われた2019年の年次会合では、様々な地域やコミュニティの間で関係を構築するための新しい戦略など、重要な課題が話し合われました。公式会合に続き、相川一俊次席公使がレセプションを主催しました。



各地を代表してCG-JAに参加したカウンシル・リーダーのジューン・テイラー氏(コロラド州)とピーター・サカイ判事(テキサス州)。在バップアロー名誉総領事(ニューヨーク州)のジョー・ケスラー氏とともに。

議会のネットワーキング

米日カウンシルは、議会のネットワーキングを通じて、日米議員間の対話と交流を州、地方、国レベルで推進しています。4月、日米文化教育交流会議(カルコン)と米日カウンシルは、第6回日米議員交流サミットをモーリーン&マイク・マンズフィールド財団にて開催しました。参加した団体は、より密に情報交換を行い交流プログラムの参加者を増やす方法について話し合いました。

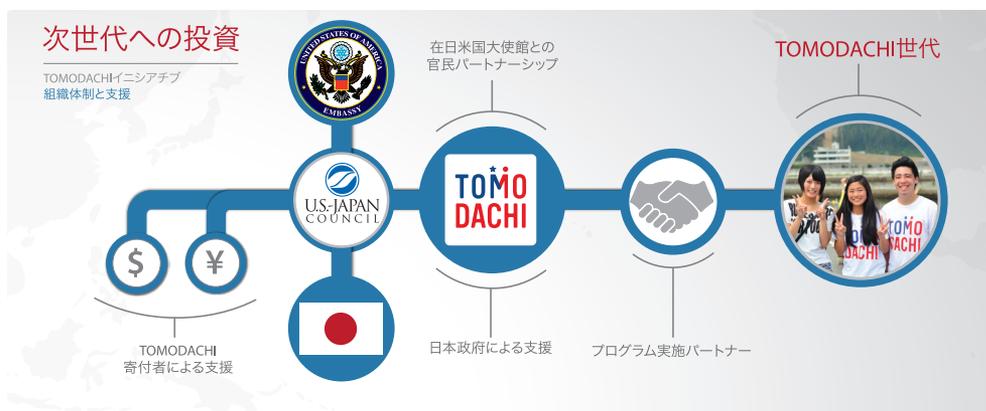
TOMODACHIイニシアチブ:

TOMODACHIイニシアチブについて
TOMODACHIプログラム



**TOMO
DACHI**

TOMODACHIイニシアチブについて



TOMODACHIイニシアチブは、米日カウンシルと在日米国大使館が主導する官民パートナーシップで、日本政府の支援も受けています。東日本大震災の復興支援から生まれたTOMODACHIイニシアチブは、教育、文化交流、リーダーシップといったプログラムを通して、日米の次世代のリーダーの育成を目指しています。

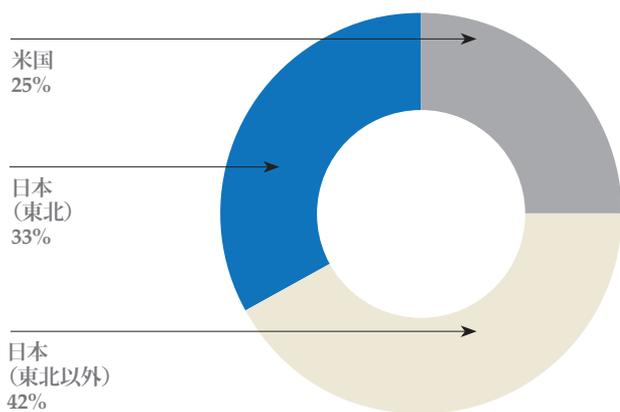
日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、より協動的で繁栄した安全な世界への貢献と、そうした世界での成功に必要な、世界中で通用する技能と国際的な視点を備えた日米の若いリーダーの育成を目指しています。

2012年には、TOMODACHIイニシアチブを支援するため、米日カウンシルージャパンが設立されました。公益財団法人に認定された米日カウンシルージャパンは、東京を本部としています。

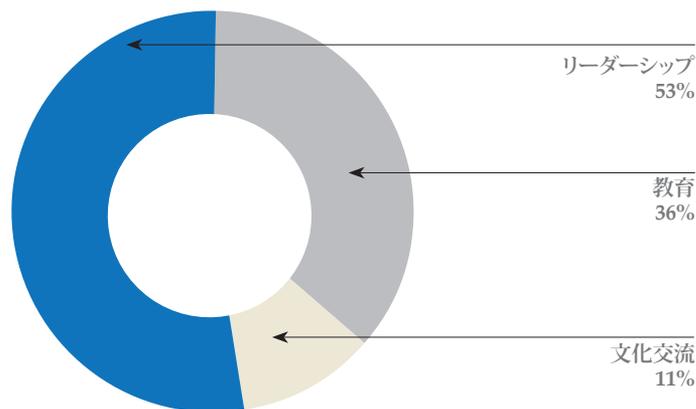
詳しくは www.tomodachi.org をご覧ください。

総勢830名が28件のプログラムに参加

2019年参加者数：
出身者別



2019年参加者数：
プログラム別



TOMODACHIプログラム



TOMODACHI世代サミット

9月に「TOMODACHI世代サミット2019」が昭和女子大学およびテンプル大学ジャパンキャンパスにて開催されました。本イベントは、アラムナイによる、アラムナイのためのシグネチャー・プログラムです。2019年のサミットは、新しい令和時代、そして東京オリンピック、パラリンピックに向けて、次の時代へ一歩を踏み出せるよう、参加者を応援することを目指しました。TED×Tokyo共同創始者のパトリック・ニューエル氏が基調講演者として登壇し、バイリンガルやバイカルチャーの技量を活用して社会に影響を与えるよう、TOMODACHIアラムナイを鼓舞しました。本サミットは、ブルデンシヤルの多大なるご支援を受け開催されました。



TOMODACHI 日本アムウェイ財団 東北ミライリーダー・プログラム

2019年には、観光と文化交流に焦点を当てた「TOMODACHI 日本アムウェイ財団 東北ミライリーダー・プログラム」が初めて開催されました。3月から4月にかけて、宮城県南三陸町の高校生16名が、ワシントンDC、ニューヨーク市、そしてニュージャージー州沿岸の「ジャージー・ショア」といわれる地域を10日間訪れました。ニュージャージーのシーサイドハイツ(写真)では、2012年のハリケーン・サンディから回復し、通年での観光事業を復活させたことについて町長から話を聞き、故郷の南三陸町と多くの共通点を見出しました。

これらのプログラムは、日米両国の企業の温かいご支援により実現しました。2019年のプログラムと支援企業等の詳細については別途、TOMODACHIイニシアチブ活動報告書に掲載しています。詳しくはwww.tomodachi.orgをご覧ください。

TOMODACHIの主要なパートナーである3つの企業が、TOMODACHIの運営において重要な役割を担っています。武田薬品工業株式会社は、TOMODACHIの組織運営を支援し、ブルデンシヤル財団はTOMODACHIアラムナイのためのプログラムを支援し、EVOLUTION JAPANは東京事務所のスタッフにオフィススペースと支援を提供しています。

TOMODACHIプログラム

BUILDING THE TOMODACHI GENERATION: MORGAN STANLEY AMBASSADORS PROGRAM 2019

2019年のBuilding the TOMODACHI Generation: Morgan Stanley Ambassadors Programの一環として、19名の日本人とアメリカ人の大学生がパネル・ディスカッションや視察、チーム育成の活動(写真)に参加しました。本プログラムは、社会問題の解決のため、様々な分野を横断したパートナーシップのモデル構築について学ぶことを目的としており、2月と3月にワシントンDCで行われます。本プログラムには、ワシントンセンターがパートナーとして参画しています。



「(このプログラムを通じて)一緒に課題に取り組み、お互いを頼ることで、日本人の学生と真の関係を築くことができました。」

—TOMODACHIアラムナイ
マニュエル・アリエタ氏



TOMODACHI・MUFG 国際交流プログラム

6月から7月にかけて、南カリフォルニアの高校生20名が、「第8回TOMODACHI・MUFG国際交流プログラム」を通して日本を訪問しました。彼らは、二週間にわたって、東京、福島、広島各地を訪れ、文化交流の体験とともに、日米関係や防災、持続可能な社会実現について様々な観点から理解を深めました。

「私は始め、このプログラムをただ文化交流のプログラムだと思っていましたが、それは間違いであることに気がきました。本プログラムで、困難を経験した多くの人々と出会い、たくさんのことを学ぶことができるととても嬉しく思います。私は...この経験を今後の自分の人生に活かします。」

—TOMODACHIアラムナイ
エミリー・ムーア氏

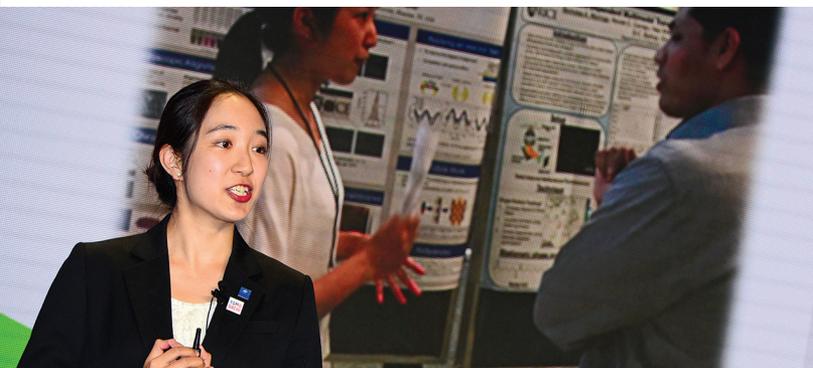
TOMODACHIプログラム

TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム

8月、TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラムの一環として、8名の東北出身または在住の看護学生が、ニューヨーク、ニュージャージー、ワシントンDCを訪問しました。学生らは、災害医療・看護やアメリカにおける医療体制だけでなく、9.11同時多発テロやハリケーン・サンディ後の復興についても学びました。5年目となるこのプログラムは、これまで30名以上の東北の看護学生を支援してきました。

「プログラムが始まる前ははいよいよここからがスタートだ、と意気込んでいましたが、プログラムの全過程を終えて思うことは、今こそが本当の意味でのスタートだということです。」

—TOMODACHIアラムナイ
長尾 晏寿美氏



米日カウンシル・アニュアル・カンファレンス

11月に開催された2019年米日カウンシル・アニュアル・カンファレンスでは、TOMODACHI住友商事奨学金プログラムとTOMODACHI-STEM @ Rice University Programに参加した小松夏実氏(写真)を含む日米のTOMODACHIアラムナイ数名が登壇し、TOMODACHIでいかに人生が変わったかについて語りました。



TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム

1月と3月には、TOMODACHI 住友商事奨学金プログラムを通して米国に留学中の日本人大学生数名が、一週間かけてワシントンDCとニューヨークを訪れ、米州住友商事会社主催のリーダーシッププログラムに参加しました。写真は3月に訪問し、ワシントンDCで米日カウンシルのメンバーと夕食を楽しむ学生です。

「この1年間の経験は私に自信を与えてくれました。初めは大き過ぎると思える挑戦でも、新たな環境に飛び込んでしまえば適応することができること、そしてその後の成長を信じ、自分を奮い立たせられるようになるようになりました。」

—TOMODACHIアラムナイ
千葉 竜弥氏

TOMODACHIプログラム



TOMODACHI HONDA グローバル・リーダーシップ・プログラム

8月、日本各地から選出された20名の高校生がTOMODACHI Hondaグローバル・リーダーシップ・プログラムに参加しました。彼らは、二週間かけてカリフォルニア州ロサンゼルスとHondaの営業・製造拠点であるオハイオ州を訪問しました(写真はオハイオ州ダブリンの高校にて)。本プログラムは2014年から2017年に実施された「TOMODACHI Honda文化交流プログラム」の成功に基づき、2018年に開始しました。



TOMODACHI-UNIQLOフェローシップ

2013年に開始された本プログラムは、日本のビジネスおよびファッション業界を担う次世代リーダーを支援し、ニューヨーク州立ファッション工科大学(FIT)とパーソンズ・スクール・オブ・デザインの二つの教育機関における留学の機会を提供します。2019年は、ファーストリテイリング財団の支援により、2名の才能ある学生が大学院へ進学するための奨学金を獲得しました。



TOMODACHI-MITSUI & CO. LEADERSHIP PROGRAM

2019 TOMODACHI-Mitsui & Co. Leadership Programの一環として、7月、10名の米国の若手社会人が東京と福島県を訪問し、福島県の内堀雅雄知事をはじめとするリーダーと交流し、地域の活性化について学びました。9月には、日本人若手リーダー10名がシリコンバレーとワシントンDCを訪問し、イノベーション、起業家精神とリーダーシップについて学びました(写真は同プログラムのアラムナイや米日カウンシルのメンバーとの朝食会にて)。

TOMODACHI カケハシ イノウエ・スカラーズプログラム

2018-19年度の「TOMODACHIカケハシ イノウエ・スカラーズプログラム」の一環として、ハワイ・パシフィック大学の学生は、福岡県の太宰府天満宮を訪ねました。学生らは、太宰府のスタッフから、木うそ(行事に使われる、うその形をした木製の人形)の彫り方と色の付け方を学び、本プログラムを通じたパートナー校である福岡女学院大学の学生らに案内されつつ、美しい天満宮を見てまわりました。この交流プログラムでは、日米それぞれ4校の大学の学生が、故ダニエル・K・イノウエ上院議員の功績について学びます。本プログラムは外務省のカケハシ・プロジェクトの一環として実施されています。



役員・スポンサー等:

理事会
レガシー・カウンシル
評議員会
米日カウンシル—ジャパン 役員会
役職者・スタッフ
スポンサーシップと支援
メンバーシップ



米日カウンシル理事会

(2019年12月時点)

米日カウンシルの理事会は、当カウンシルの使命や活動を作り出し導いていくため専門知識を共有する、日米各地のリーダーから構成されています。

理事会役員

フィリス・キャンベル 理事長
JPモルガン・チェイス 太平洋西北地区長

アイリーン・ヒラノ・イノウエ 会長
米日カウンシル 会長

スーザン・アイコー 副理事長
aio 社長兼COO

木澤 朋子 副理事長兼監査委員長
Deloitte LLP パートナー

デニス・スギノ 副理事長兼投資委員長
Kansa Advisory LLC 創設者

萬 タシャ 書記役兼エンゲージメント委員長
Yorozu法律事務所 代表弁護士

デービッド 西田 会計役兼財務委員長

デニス・テラニシ 前理事長
PICHTR 社長兼 CEO



米日カウンシル評議員会の田中正明副会長と米日カウンシルージャパン評議員会のキャシー松井会長

米日カウンシルは、2019年12月に任期を終えた理事の厚子・東光・フィッシュ氏、ジル・ニシ氏、デニス・テラニシ氏に深く御礼申し上げます。三名とも、2020年1月よりレガシー・カウンシルにて活動されています。

理事

デービッド・みきお・ブーン
マイケル・ベーカー・インターナショナル
取締役副社長 兼 最高成長責任者

デービッド・健司・チャング
タイヴォーキャピタル
ポートフォリオマネージャー

ドナ・フジモト・コール
コール・ケミカル・ディストリビューティング社
取締役社長兼CEO

厚子・東光・フィッシュ
フィッシュファミリー財団 創設者

五味 和洋 資金調達共同委員長
NTT Research Inc. 社 代表取締役社長

トッド・ガイルド
サントリーホールディングス株式会社
副会長付シニアアドバイザー

比嘉ジェームス
ファイナンスロビック・ベンチャーズ・ファウンデーション 事務局長 及び インデックス・ベンチャーズ メンター・イン・レジデンス

リオナ・ヒラオカ コミュニケーション委員長
スナイダー・ストラテジーズLLC
シニア・アドバイザー

海部 優子 推薦兼ガバナンス委員長
ジャパンハウスLA 館長

森 ジョシュア
The J. Morey Company, Inc. 社長

仲宗根 ノーマン
セントラルパシフィックバンク
シニアバイスプレジデント

ジル・ニシ プログラム企画委員長

岡田 マーク
Sycamore Tree Capital Partners L.P.
共同創業者 専務取締役

雄谷洋子
Straterix Inc. パートナー

スコット 佐藤 資金調達共同委員長
トライコー・ジャパン CEO

ロナ・ティソン
北米伊藤園
コーポレートリレーションズ担当上級副社長

ウィリアム・ツツイ
ヘンドリックス・カレッジ学長、歴史学科教授

レガシー・カウンシル

レガシー・カウンシルは、米日カウンシルの役員としての任期を終えた理事の皆様や一部の評議員の皆様で構成されています。これは、過去、現在、そして将来における、役員の皆様の多大な貢献を称え、過去の役員が引き続き米日カウンシルでリーダーとして活躍することを奨励するものです。

トーマス 飯野 理事長
ファースト・チョイス銀行 取締役

トレイシー・ドイ
トヨタ・モーター・ノース・アメリカ
CFO兼グループバイスプレジデント

ショウ・ドゾノ
ドゾノインターナショナル 社長

マイケル・ヒライ
Barrow, Hanley, MeWhinney & Strauss クライアント・デベロップメント・ディレクター

ロバート・イチカワ
コバヤシ・スギタ・ゴダ法律事務所
所 パートナー

フレデリック・H・カタヤマ
ロイター・テレビ
アンカー兼プロデューサー

デイン河野
増田・舟井・アイファート&ミッチェル法律事務所シカゴ 会長

コルバート・マツモト
アイランド・ホールディングス社
代表取締役会長

モーニ・ミヤシタ
イノサイト・コンサルティング
所 パートナー

スーザン森田
アーノルド・ポーター法律事務所
所 パートナー

ポール・ニワ
エマソン大学
ジャーナリズム学部 准教授

アレン・M・オカモト
T. オカモト & Co. 社長

スーザン・J・オオヌマ
イングラム・ユーズック・ゲイネン・キャロル・ベルトロッチティ法律事務所
所 パートナー

ヘンリー 太田
日米文化会館 理事

ウォーレス・K・ツーハ
ツーハ財団 理事長

ジャン・ヤネヒロ
ジャン・ヤネヒロ社 社長

米日カウンシル評議員会

(2019年12月時点)

米日カウンシルの評議員会は、日米関係強化への長年の貢献とコミットメントが広く認識されているリーダーから構成されています。彼らの専門知識や助言は、当カウンシルの使命や活動の方向性を定めています。

評議員会役員

ポール 与那嶺 会長
セントラルパシフィックバンク 代表取締役会長

ノーマン・Y・ミネタ 副会長
ミネタ・アソシエーツ 社長兼CEO、元米国運輸長官、元米国商務長官

田中正明 副会長
日本ペイントホールディングス(株) 代表取締役会長

評議員

阿川 尚之
同志社大学特別客員教授

ジョージ・アリヨシ
元ハワイ州知事

ジェラルド・カーティス
コロンビア大学 政治学名誉教授

藤崎 一郎
中曽根康弘世界平和研究所 理事長、元駐米特命全権大使

藤田 浩之
クオリティ・エレクトロダイナミクス 理学博士(物理学)ファウンダー、社長兼最高経営責任者

福田 康夫
元内閣総理大臣

グレン・S・フクシマ
米国先端政策研究所 上級研究員

コリー・ハナブサ
弁護士、元米国連邦下院議員(ハワイ州)

アーネスト・エム・比嘉
ヒガ・インダストリーズ 代表取締役会長兼社長

平野 信行
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ 取締役執行役会長

メイジー・ヒロノ
米国連邦上院議員(ハワイ州)

本庄 洋介
伊藤園米州グループ CEO & ファウンダー

飯島 彰己
三井物産株式会社 代表取締役会長

井上 礼之
ダイキン工業株式会社 取締役会長兼グローバルグループ代表 執行役員

加藤 良三
元駐米特命全権大使

エリー・キーナン
IBMコーポレーション ゼネラル・マネージャー、日本アイ・ビー・エム株式会社 取締役会長

河野 雅治
日本国政府代表(中東地域及び欧州地域関連)中東和平担当特使

小島 順彦
三菱商事株式会社 相談役

国谷 裕子
ジャーナリスト、国連食糧農業機関親善大使

ドリ・マツイ
米国連邦下院議員(カリフォルニア州)

永井 浩二
野村ホールディングス 代表執行役社長グループCEO

永野 毅
東京海上ホールディングス 取締役会長

中西 宏明
株式会社日立製作所 取締役会長兼執行役

新浪 剛史
サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長

ダニエル・オキモト
スタンフォード大学 名誉教授、ショレンスタイン APARC名誉所長、FSIシニア・フェロー

ジョン・オノダ
Gagen MacDonald シニア・コーポレート・カウンセラー

W・ダグラス・パーカー
アメリカン航空 会長兼最高経営責任者

スーザン・H・ルース
ジオデシック・キャピタル パートナー兼CAO

桜井 本篤
ジャパン・ソサエティー前理事長、元在ニューヨーク総領事(大使)

佐々江 賢一郎
日本国際問題研究所 理事長兼所長、元駐米特命全権大使

ジョン・トーマス・シーファー
アンヴォイ・インターナショナル 代表取締役社長兼CEO、元駐日特命全権大使

マーク・タカノ
米国連邦下院議員(カリフォルニア州)

鷹城 勲
日本空港ビルディング株式会社 代表取締役会長兼CEO

ジョージ・タケイ
ホサト・エンタープライズ社 俳優

渡邊 利三
渡邊利三財団 会長

クリスティー・ヤマグチ
オールウェイズドリーム財団 創設者

ロイ・ヤマグチ
「Roy's」 オーナーシェフ

山中 伸弥
2012年ノーベル賞 受賞者、京都大学iPS細胞研究所 所長

名誉評議員

河野 洋平
元衆議院議長

ウォルター・モンデール
元米国副大統領、元駐日特命全権大使

齊藤 邦彦
元駐米特命全権大使

柳井 俊二
国際海洋法裁判所裁判官、元駐米特命全権大使

米日カウンスル—ジャパン

理事会ならびに評議員会

(2019年12月時点)

理事会

ローヤン・K・ドイ 代表理事
ヤマハ株式会社 経営本部 法務部 Global Legal, Ethics & Compliance Adviser
アイリーン・ヒラノ 代表理事
米日カウンスル 会長
デービッド 西田 副理事長
片山 隆一 監事
川原 K. ラッセル
渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 パートナー
スタン・コヤナギ
オリックス株式会社 取締役 兼 常務執行役 グローバルジェネラル
カウンセル
ゲイリー・S・モリワキ
ウインデルズ・マークス・レイン・ミッテンドルフ法律事務所 パートナー
大出 隆
学習院女子大学 国際文化交流学部 非常勤講師
ジェニファー・ロジャーズ
アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会社
ゼネラル・カウンセル アジア

米日カウンスル—ジャパンは、TOMODACHIイニシアチブを支援するため、2012年に設立されました。公益財団法人である米日カウンスル—ジャパンは、東京を本部としています。

評議員会

キャシー 松井 会長
ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長
藤井 ダニエル 一範
トラスト・キャピタル株式会社 代表取締役社長兼CEO
ウィリアム・アイアトン
ソニー・ピクチャーズ インターナショナルプロダクションズ 日本代表
大河原 愛子
株式会社ジェーシー・コムサ 代表取締役会長
高田 ヘンリー 聖一
シンテックジャパン株式会社 代表取締役

役職者・スタッフ

(2019年12月時点)

ワシントンDC本部:

アイリーン・ヒラノ・イノウエ 会長
ローラ・ウィンスロップ・アボット 取締役副会長
テリー・スエットナム COO
テス・エスポジート CFO
マイヤ・フィッシャー 教育担当ディレクター
シェイン・グレイブス
プログラム開発ディレクター

小西 ウェストン
パートナーシップ&ディベロップメント
ディレクター
立上 園子 運営事務局総務部長
アリソン・アードランド
パブリックリレーションズ・マネージャー
メア・彩 コミュニケーションズ・マネージャー
岡崎 詩織 コミュニケーションズ・スペシャリスト

マリア・サバサ 会計マネージャー
ゲイリー・ゾットリ ファイナンス・マネージャー
グレース・キム プログラム・コーディネーター
ロビン・ミッチェル
ディベロップメント・コーディネーター
メリッサ・キミコ・ナカムラ
メンバーシップ兼地域プログラム担当
コーディネーター

カリフォルニア:

ケンタ・タカモリ
シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム
エグゼクティブ・ディレクター
万庭 和夫 上級副会長

ユミ・ヒロシマ
シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム
エグゼクティブ・アシスタント兼
プログラムマネージャー

村田 アリソン プログラム・マネージャー
永田 歩 地域プログラム・マネージャー

ハワイ:

ウェンディ・アベ 渉外担当ディレクター

東京:

津田 順子
米日カウンスル—ジャパン 事務局長
堀田 満代
TOMODACHIイニシアチブ ディレクター
(TOMODACHIプログラム&広報)
ウヤンガ・エルディンボルド
TOMODACHIイニシアチブ Women's
Leadership Program プログラムマネージャー
橋本 彩
TOMODACHIイニシアチブ
プログラムマネージャー

加藤 ひろみ
TOMODACHIイニシアチブ
アドミニストレイティブ・オフィスマネージャー
上山 真紀
TOMODACHIイニシアチブ マーケティング&
コミュニケーションズマネージャー
宇多田 カオル
TOMODACHIイニシアチブ
アラムナイ・マネージャー
天野 友貴
TOMODACHIイニシアチブ
プログラムコーディネーター

高木 香奈
TOMODACHIイニシアチブ プログラム&
ディベロップメント・コーディネーター
高橋 実希
アドミニストレイティブ・コーディネーター
サバンナ・シ
TOMODACHI イニシアチブ
プログラム・アシスタント
宍戸 由加里
TOMODACHIイニシアチブ
アラムナイ・リレーションズ・アシスタント

スポンサーシップと支援

米日カウンシルと米日カウンシルージャパンは、企業、個人、財団法人等の皆様による寛大な寄付によって支えられています。当カウンシルは、人と人とのつながりを通じて日米関係を強化するという目的を、こういったスポンサーの方々と共有しています。以下のアニュアル・カンファレンス、リーダーシップ・ワークショップ、日本ーカリフォルニア知事会議、地域プログラム、新生リーダープログラム、シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム等のスポンサーの皆様、法人会員や財団法人の皆様によるご支援に感謝申し上げます。

プラチナ・スポンサー



タイトル・スポンサー



シグネチャー・スポンサー



小川アンドリュー&マーカス



デニス・R・スギノ



渡邊利三財団



プレミア・スポンサー



フィリス・キャンベル



デービッド・健司・チャング

ローヤン・ドイ



匿名

アイリーン・ヒラノ・イノウエ



J.C.C.ファンド



プレミア・スポンサー (前頁より続く)



MITSUI SUMITOMO
MARINE MANAGEMENT
(U.S.A.), INC.



ジョン&スーザン・ルース

スコット 佐藤



Sumitomo Corporation of Americas
FOUNDATION



デニス・Y・テラニシ



ポール&リンダ与那嶺

ゴールド・スポンサー

Angeles Investment Advisors, LLC
株式会社 青山財産 ネットワークス
匿名
ジョン&スザンヌ・バサラ
Big Island Candies
Rita Brogan, Brogan LLC
コール・ケミカル・ディストリビューティング
EVOLUTION FINANCIAL GROUP
藤田浩之 クオリティー・エレクトロダイナミクス
富士通株式会社
GCA株式会社
トッド&ヤスコ・ガイド
株式会社ヒガ・インダストリーズ
株式会社 日立ハイテクノロジーズ
Hogan Lovells US LLP
トーマス&バーバラ 飯野株式会社 経営共創基盤
The J. Morey Company
日本航空株式会社
JPモルガン・チェース
JTB USA, Inc.
Keiro
コニカミノルタ株式会社

匿名
KPMG Japan
匿名
コルバート&ゲール・マツモト
Mitsui Chemicals America, Inc.
三井不動産株式会社
ORIENT CORPORATION OF AMERICA
ヘンリー 太田
Ms. Yoko Otani and Dr. Shunichi Homma
パロアルトネットワークス株式会社
株式会社リコー
Sanrio, Inc.
ソースネクスト株式会社
Sompo International Insurance
ランス・スチュアート
サントリーホールディングス株式会社
東京海上アメリカ
東洋水産株式会社
ValueAct Capital
ヤマハ株式会社
読売新聞社

2019年 法人会員

American Airlines, Inc.
American Honda Motor Co., Inc.
日本アムウェイ合同会社
アラタニ財団
アステラス製薬株式会社
Brother International Corporation
Central Japan Railway Company
ダイキンU.S.社
Deloitte LLP
東日本旅客鉄道株式会社
Henry Schein, Inc.
Highland Capital Management
株式会社日立製作所
Island Insurance Foundation
北米伊藤園
伊藤忠インターナショナル株式会社
日本空港ビルデング株式会社
J.C.C. ファンド
ジョンソン・エンド・ジョンソン
日本法人グループ
Kawasaki Heavy Industries (USA) Inc.
丸紅米国会社
Maruichi Leavitt Pipe & Tube, LLC
三井物産株式会社
Mohegan Gaming & Entertainment
MUFG ユニオンバンク
NECコーポレーション・オブ・アメリカ社
Nitto Tire U.S.A. Inc.
野村ホールディングス株式会社
NTT グループ
オリックス株式会社
パソナ
PwC Japan グループ
双日米国会社
ソニー株式会社
米州住友商事ファウンデーション
テラサキ・ファミリー財団
凸版印刷株式会社
株式会社 東芝
渡邊利三財団
トヨタ・モーターノースアメリカ
Yorozu Law Group

支援者

a.link LLC ダイアン・ゆり・足立 ガイ・アカサキ デービッド・アキナカ Alaka'i Executive Search チャールズ・オールコック American Savings Bank Arrowood Insurance Services 浅和英太朗アーチバルド ジュリー・アズマ シェリー・ブライアント ドナ・フジモト・コール アーネスト・ドイザキ ロバート・フェルドマン Firstwise Communications Inc 福永・マーク 五味和洋	D. ロバート・ヘイル ジェイソン&キム・ハルキ リン・ハシモト 畑ラッセル Hawaiian Electric Company 比嘉 ジェームス 東 由美 リオナ・ヒラオカ ロバート・イチカワ 池野 文昭 マーク・イエキ Japan International Transport and Tourism Institute, USA 香川ステイブ 川勝 平太 知事 トム・ケリー マシュー・ケニグスバーク	マイケル・キム キャロル・コマツカ 倉橋 道子 万庭 和夫 Ms. Barbara C. Marumoto- Coons 三雲 章子 Dr. Brennon Morioka 村瀬 悟・裕子 ヴァーン・ナイトウ 仲宗根 ノーマン ポール・ニワ 大河原 愛子 チャールズ・オザキ Pacific Guardian Life Mr. Jason Rabitt-Tomita Ms. Akemi Saitoh	サンディー・シライ キャサリン・ステイブンス 鈴木 善輝 ジョン・タナカ ドナ・タノウエ ステイブン・テラオカ キース・テラサキ Mr. Tatsuki Tomita ウイリアム・ツツイ アレン・ウエダ Y. Hata & Co., Limited ジェフェリー・W・ヤブキ 湯崎 英彦 知事
---	--	--	--

現物寄付

American Airlines, Inc. ビッグアイランド・キャンディーズ ドナ・フジモト・コール Deloitte LLP EVOLUTION FINANCIAL GROUP 株式会社 日立製作所 北米伊藤園	King's Hawaiian Mohegan Gaming & Entertainment MUFG Union Bank, N.A. Nitto Tire U.S.A. Inc. OmniTrak Group Inc. SoftBank Telecom America Corp. サン ヌードル	T. オカモト & Co. テラサキ・ファミリー財団 東急グループ 凸版印刷株式会社 トヨタ・モーターノースアメリカ
--	--	--

契約・助成金

在アメリカ合衆国日本国総領事館	笹川平和財団
在アメリカ合衆国日本国大使館	State of Hawaii

シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム

APAMAN株式会社	NECコーポレーション
東日本旅客鉄道株式会社	三精テクノロジー株式会社
株式会社ファーストリテイリング	信金中央金庫
日本郵便株式会社	三井住友信託銀行
三井不動産株式会社	東急不動産株式会社
森トラスト株式会社	Toyota Research Institute

TOMODACHIイニシアチブ

TOMODACHIイニシアチブのストラテジック・パートナー、スポンサーとサポーターのリストをご覧になるには、2019年のTOMODACHI活動報告書または <http://usjapantomodachi.org/about-us/donors/> をご参照ください。

渡邊利三氏と渡邊夫人の多大なご寄付により、2019年度には、40名の学生が米国と日本の大学で学ぶことができました。多大なご支援に御礼申し上げます。2019年は、米国にいる日本人留学生への支援が四年目、日本にいるアメリカ人留学生への支援が二年目を迎えた年でした。

米日カウンシルの監査済み財務諸表は
こちらのウェブページにてご覧いただけます：
www.usjapancouncil.org/operations

メンバーシップ

(2019年12月時点)

米日カウンシルは、組織の使命を共有するメンバーと支援者で構成されています。この中には、大企業や学术界、研究機関、政界、法曹界のトップや起業家、思想的指導者も含まれます。「カウンシル・リーダー」は、米日カウンシルでの活動を通じて日米関係構築に貢献するリーダーです。「アソシエート」は、米日カウンシルの活動に従事する18歳から40歳の若い有識者です。「フレンズ・オブ・ザ・カウンシル」は、米日カウンシルを支援し関わりたいと考えるものの、活動に参加することができない個人です。「法人会員」は、\$10,000以上の寄付を通じて、米日カウンシルの使命やプログラムを年単位で財政支援する企業です。

2019年12月の時点で、米日カウンシルには、計696名のカウンシル・リーダー、アソシエート、フレンズ・オブ・ザ・カウンシルがいました。法人会員を含め、メンバー全員の一覧は、当カウンシルのウェブサイト www.usjapancouncil.org でご覧いただけます。

カウンシル・リーダー

478

アソシエート

180

フレンズ・オブ・ザ・
カウンシル

38

計 696名

「米日カウンシルは、私たちを米国、特に私たちが重要な関係を持っているカリフォルニアやハワイとつなげてくれます。私たちは、米日カウンシルを通じて米国の要人とつながり、個人的な関係を構築することができます。その結果、私たちの企業、教育機関や文化機関は、米国のカウンターパートとともに発展し、両国間の…交流に貢献します。」

一湯崎 英彦氏
広島県知事

「私が情熱を注ぐ米日カウンシルは、もはや人生の一部です。どこで働いていても、私は米日カウンシルと関わり続けます。その使命を強く信じているからです。」

一海部 優子氏
ジャパンハウスLA 館長

国別の内訳

他の国でも一名のメンバーが活躍しています。



米国
613



日本
82

「米日カウンシルのメンバーの素晴らしいところは、誰もが必ず何かを貢献するということです。米日カウンシルや次の世代、日米関係のために何かしたいと考えている人ばかりです。米日カウンシルは、皆がその貢献を実現し、同じ目標を持つ人たちを見つけ、ネットワークを広げるためのリソースにアクセスし、実際に日米関係に変化をもたらせるよう、場を提供します。」

一スザンヌ・バサラ氏
トヨタ・リサーチ・インスティテュート
チーフ・オブ・スタッフ

MEMBERSHIP BREAKDOWN BY SECTOR

[BUSINESS]

442



[GOVERNMENT]

95



[NONPROFIT]

159





www.usjapancouncil.org
contact@usjapancouncil.org

ワシントンDC本部

1819 L Street, NW, Suite 800
Washington, DC 20036

Tel: (+1)(202) 223-6840

Fax: (+1)(202) 280-1235

東京事務所

〒 102-0094 東京都千代田区
紀尾井町 4-1
ニューオータニ ガーデンコート12階

Tel: (03) 4510 3400

Fax: (03) 4510 3419

ロサンゼルス事務所

2207 Colby Avenue
Los Angeles, CA 90064

Tel: (+1)(310) 500-2873

 www.facebook.com/usjapancouncil

 @USJC | #USJC

 linkedin.com/company/usjapancouncil/

 @usjapancouncil

 www.flickr.com/photos/USJC/

 www.youtube.com/USJapanCouncil